

2022 年度日本農村生活学会大会

(第 70 回記念大会)

プ ロ グ ラ ム

期 日：令和 4 年 10 月 8 日 (土) 13:00 ~ 16:50
10 月 9 日 (日) 9:30 ~ 15:45

会 場：栃木県宇都宮市峰町 350 宇都宮大学 農学部

★ シンポジウム 10 月 8 日 (土) 13:20~15:45

会場 農学部 1E11 教室 (農学部 1 号館 1 階)

「食と農がつながると、社会や地域の問題にどうアプローチできるか？」

座長：西山 未真 (宇都宮大学)

パネリスト：

秋田 昌子 (すみだ食育 good ネット)

堀口 博子 (エディブル・スクールヤード・ジャパン)

野原 典彦 (ナチュラルフード森の扉)

★ ラウンドテーブル A 10 月 9 日 (日) 13:00~15:00

会場：農学部 大会議室 (農学部 1 号館 2 階)

「移動販売とコミュニティナースの活動—農村地域の買い物弱者と社会的孤立—」

コーディネーター：杉原 たまえ (東京農業大学)

話題提供者：佐藤 豊彦・坂本 朋子 (合同会社 繋ごう農村 栃木県那珂川町)

コメンテーター：小坂田 稔 (美作大学)

★ ラウンドテーブル B 10 月 9 日 (日) 13:00~15:00

会場：UU プラザ 2 階

「子ども食堂の取り組み —経済的貧困と関係性貧困—」

コーディネーター：飯塚 里恵子 (千葉農村地域文化研究所)

話題提供者：萩野 友香里 (キッズハウスいろどり 宇都宮市)

コメンテーター：中村 貴子 (京都府立大学)

主 催：日本農村生活学会

後 援：宇都宮大学

【 第 1 日 10 月 8 日 (土) 】

受付開始 12:00~

(1) 開会式 13:00 ~ 13:15 会場：農学部 1E11 教室 (農学部 1 号館 1 階)

総合司会 : 西川 智善史 (栃木県庁農政部)
学会長挨拶 : 市田 知子 (明治大学)
大会委員長挨拶 : 西山 未真 (宇都宮大学)
開催校代表挨拶 : 山根 健司 (宇都宮大学 農学部長)

シンポジウム準備 (13:15~13:20)

(2) シンポジウム 13:20 ~ 15:45

テーマ「食と農がつながると、社会や地域の問題にどうアプローチできるか？」

高度経済成長期以来、食と農（食の生産と消費）が遠く離れ、私たちの生活は食の安全安心など食にまつわる様々な問題に直面している。そうした問題を解決するために、1990 年代以降、食と農を地域で再び結びつける重要性が認識され、世界各地で様々な取組が広がってきた。また、近年では、地域内で農産物を流通させることだけでなく、食と農の周辺にある多様な地域課題を解決する取り組みへと展開している。

本シンポジウムでは、食と農をつなぐ取り組みについて、課題解決を目指した仕組みづくりの側面から定義し、それがどのように地域の課題にアプローチできるのか現状と可能性を議論したい。そのために、3 人の実践者にパネリストとして登壇いただく。第 1 報告は、すみだ食育 good ネットの秋田昌子氏に、すみだの食育の取り組みについてご報告いただく。「農」がない都市において、地域課題としての食育がどのように位置付けられ、どのように食と農をつなげてきたのか。また、それをどのような行政との関係において取り組んできたのか紹介いただく。第 2 報告は、エディブル・スクールヤード・ジャパンの堀口博子氏に、学校の校庭にエディブルスクールヤード＝食育菜園を作るエディブル教育の実践についてご報告いただく。学校教育や子どもの発達に、食を通じて自然と命とのつながりを体験的に学ぶエディブル教育が果たす役割や学校教育への影響について紹介いただく。第 3 報告は、ナチュラルフード森の扉の野原典彦氏に、有機栽培や自然栽培で生産された農産物の提供や農業体験など、地域内外が交流するプログラムの実践についてご報告いただく。農業体験を受け入れる農村地域にどのような課題があり、地域内外の交流によってお互いどのような変化が見られるのか報告いただく。以上の 3 報告のあと、地域課題の現状とそれへのアプローチとしての食と農をつなぐ取り組みに関して、活動の内容的な広がりや深まりを確認し、それが地域社会にどのような影響を及ぼしうるのか、あるいは、どのように課題解決に結びつけられるのか議論し、食と農がつながることの今日的意義を改めて整理したい。

さらに、2 日目は 2 つの話題提供をきっかけに、「円卓」でざっくばらんに議論しつつ、さらに認識を深める。ラウンドテーブル A は、合同会社繋ごう農村の佐藤豊彦氏と坂本朋子氏に、栃木県那珂川町での移動販売とコミュニティナースの取り組みについてご報告いただく。ラウンドテーブル B は、宇都宮市で子ども食堂を主宰している、キッズハウスいろどりの荻野友香里氏に、子ども食堂が食事を提供するだけでなく、幅広い取り組みへと広がっていることについてご報告いただく。

2 日間にわたって、食と農の現場からの豊富な話題をもとに、シンポジウムとラウンドテーブルという形式で、食と農がつながることの可能性、社会や地域にどのようなインパクトを与えうるのかについて議論が深まることを大いに期待したい。

座長：西山 未真 (宇都宮大学)

座長解題

13:20~13:35

パネリスト報告：

(1) すみだ食育 good ネット(元墨田区職員) 秋田 昌子

「農のない都市の食育の取り組み —すみだの食育の事例—」

<食で！育む 行政の現場から>

13:35~13:55

- (2) エディブル・スクールヤード・ジャパン 堀口 博子
「食育菜園で体と頭といのちと自然をつなぐ」
＜農業体験による変化 学校教育の現場から＞ **13:55～14:15**
- (3) ナチュラルフード森の扉 野原 典彦
「都市住民が広げる農の可能性」
＜農業体験の受け入れによる変化 地域社会の現場から＞ **14:15～14:35**
- 休憩 **14:35～14:45**
質疑応答とディスカッション **14:45～15:45**
- (3) 2022 年度学会賞授与式 **16:00～16:20**
(4) 学会総会 **16:20～16:50**

【 第 2 日 10 月 9 日 (日) 】

(1) 一般報告

★ A 会場：1E11 教室（農学部 1 号館 1 階） 1 人 20 分（報告 15 分 質疑応答 5 分）

A-1 (9:30 ～ 10:30) 座長：川手 督也（日本大学）

- ① 二本松市農業女性プロジェクトの取組み
—戦後地域青年運動との連続性に着目して—
千葉農村地域文化研究所 飯塚 里恵子
- ② 家族経営における女性の農業参加
—農業センサスを用いた現状分析—
農林水産政策研究所 佐藤 真弓
- ③ 結婚改善運動期における嫁入り道具の継承プロセスに関する研究
富山大学 嘉瀬井 恵子

A-2 (10:40 ～ 11:40) 座長：澤野 久美（農研機構）

- ④ 女性による家族農業経営継承の実態
東京農業大学 ○原 珠里
東京農業大学大学院 稲垣 京子
山梨県立大学 堤 マサエ
- ⑤ 栃木県における女性農業者の世代間比較と分析
—多様化する農業者の成功要因と課題—
宇都宮大学大学院 ○菊池 綾音
宇都宮大学 西山 未真
- ⑥ 農業者の共同事業による六次産業化と新たな価値創造
—北海道千歳市「ふれあいファームいずみ」を事例として—
北海道大学 伴 秀実

★ B会場：農学部大会議室（農学部1号館2階）1人20分（報告15分 質疑応答5分）

B-1（9:30～10:30）座長：櫻井 清一（千葉大学）

① 地域主体の再生可能エネルギー活用に向けたビジネスモデルの構築

農研機構 唐崎 卓也

② 地域おこし協力隊制度を活用した新規就農に関する一考察
—茨城県の事例から—

農研機構 ○田村 滯

農研機構 清水 ゆかり

農研機構 山本 淳子

③ コロナ禍におけるソーシャルディスタンスと食の危機

宇都宮大学 Schragger Benjamin

B-2（10:40～11:40）座長：佐藤 真弓（農林水産政策研究所）

④ 都市と農村交流における域学連携教育モデルの可能性

—大学の教育効果を地域への波及効果に転換するために—

武庫川女子大学 ○藤井 善仁

広島大学 細野賢治

広島大学 長命洋佑

⑤ 沖縄県北部やんばる地域における教育旅行民泊を活かした農村観光の可能性と課題

大阪公立大学都市文化研究センター 佐久眞 沙也加

⑥ 農業・農村学習教育課程編成と教育方法の分析と食農教育の課題

関東学院大学理工学部 佐藤 幸也

(2) 休憩 11:40～13:00

(3) ラウンドテーブル 13:00～15:00

ラウンドテーブルA 会場：農学部大会議室（農学部1号館2階）

「移動販売とコミュニティナースの活動 —農村地域の買い物弱者と社会的孤立—」

コーディネーター：東京農業大学 杉原 たまえ

事例報告：合同会社「繋ごう農村」 佐藤 豊彦・坂本 朋子（栃木県那珂川町）

コメント：小坂田 稔（美作大学）

ラウンドテーブルB 会場：UUプラザ 2階

「子ども食堂の取り組み —経済的貧困と関係性貧困—」

コーディネーター：千葉農村地域文化研究所 飯塚里恵子

事例報告：キッズハウスいろどり 荻野 友香里（宇都宮市）

コメント：中村 貴子（京都府立大学）

(4) ラウンドテーブル総括・閉会式 15:15～15:45

会場：1E11教室（農学部1号館1階）

☆☆

大会参加費について

- 大会参加費（報告要旨代を含む）

日本農村生活学会会員	4,000 円
非会員	5,000 円

（ただし、パネラーの関係者などはこの限りではありません）

学生会員（含非会員）	2,000 円
------------	---------
- 報告要旨のみ（当日以降販売）2,000 円
- 2日目の昼食（里山旬菜弁当）（予約販売のみ）1,300 円

☆☆

<大会参加申し込み方法>

★参加申込：参加される方は、**10月3日（月）18時**までに

Peatix（<https://nouson2022.peatix.com>）にてお申込みください。左記HPの

チケットを申し込む ボタンからお申込みできます。ご記入いただくのは以下の事項です。

記載事項

- ① ご氏名：
- ② ご所属：
- ③ 会員種別： 正会員・学生会員・非会員・非会員の学生
- ④ 参加日程： 全日程・第1日のみ・第2日のみ
- ⑤ 2日目の弁当の注文
- ⑥ 連絡先：メールアドレス：
電話番号：
- ⑦ 備考（大会事務局への連絡など）：

★今大会の参加申し込みと参加費お支払いに使用する Peatix（ピーティックス）は、Peatix 社によって運営されているイベント管理システムです。大会参加申し込みから、大会参加費のお振込みまで、上記 URL のホームページ上で済ませることができます。大会参加費のお支払いには、クレジットカード・コンビニ・ATM 払いができます。コンビニ・ATM 払いの場合、振込手数料がかかります。その場合、おそれいりますが振込手数料をご負担ください。

★Peatix での大会参加申し込みにあたっては、システムにログインするためのアカウントを取得（新規登録）する必要があります。Peatix のホームページの画面右上方にある「新規登録」から、メールアドレスやパスワードなどを設定いただきます。なお、Facebook、Twitter、Google、Apple のいずれかのアカウントをお持ちの方は、それらを使ってログインすることもできます。申し込み方法等でご不明な点がある場合、次ページの大会問い合わせ先にご連絡下さい。

★大会参加費のお支払い後、やむをえないご事情により不参加の場合も原則として返金はいたしません。ご了承いただければありがたいです。

★第1日目のシンポジウムのみ、第2日目のラウンドテーブルのみご参加の場合でも、報告要旨代として会費を頂きます。学会活動ご支援にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

★第2日目の昼食用の弁当を、申込時に予約販売いたします。里山旬菜弁当 1300 円です。飲食店経営から有機農業に転じた新規就農者さんによる畑とつながったお弁当を提供いただきます（<https://watane-farm.com/catering/>）。近隣に飲食店がないわけではありませんが、弁当をぜひご賞味ください。

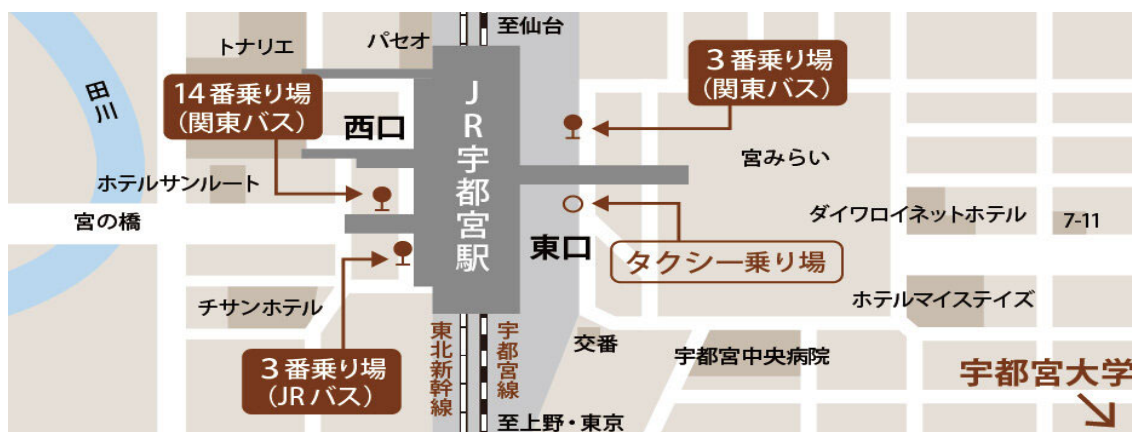
★上記の Peatix のサイトからのお申し込みができなかった場合、当日申し込みによる参加も可能です。その場合、当日の参加申込書にご記入のうえ、大会参加費を大会当日に受付にてお支払い下さい。領収書について宛先等のご指定がある方は、申込書にその旨ご記入下さい。

★ シンポジウムは公開としていますが、シンポジウムのみ参加の場合でも、会員の方からは通常の会費を頂きます。学会活動ご支援にご理解とご協力をよろしくお願い申し上げます。

<大会に関する問い合わせ先>

第70回大会委員長 西山 未真 (宇都宮大学)
第70回大会委員会事務局 西川 智善史 (栃木県庁農政部)
唐崎 卓也 (農研機構)
E-mail rsj2022@vfarm.jp

宇都宮大学峰キャンパスまでの交通アクセスご案内およびキャンパスマップ



- ★JR 宇都宮駅、東武宇都宮駅からのアクセスは、宇都宮大学のホームページ <https://www.utsunomiya-u.ac.jp/outline/map/access.php> をご覧ください。
- ★JR 宇都宮駅周辺に、ホテルは多数ございます。
- ★車でおいでの場合は、大学の正門にある守衛所で学会出席の旨をお伝えいただき、入構のパスカードをもらって、学生等駐車場にお停めください。